

## 【第2期スポーツ基本計画の策定について（中間報告）への意見】

### 対象テーマ2

スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現

#### 2（1）スポーツを通じた共生社会等の実現

##### ①障害者スポーツの振興等

p18 [具体的施策] イ

国は、先進事例の情報提供等を通じて、地方公共団体、スポーツ団体及び障害者福祉団体等による連携・協働体制を整備することにより、障害者の幼少期から高齢期を通じニーズや意欲に合ったスポーツ機会を提供する。

### ■意見

連携・協働体制として、「地方公共団体、スポーツ団体及び障害者福祉団体等」と書かれていますが、医療・リハビリテーション分野や学校教育分野との連携の重要性から、「～等」に含めず、細かく記載すべきと考えます。以下に加筆案を示します。

国は、先進事例の情報提供等を通じて、地方公共団体、学校、スポーツ団体、障害者福祉団体及び医療・リハビリテーション関係者等による連携・協働体制を整備することにより、障害者の幼少期から高齢期を通じニーズや意欲に合ったスポーツ機会を提供する。

## 2 (1) スポーツを通じた共生社会等の実現

### ③スポーツを通じた女性の活躍促進

p21 [具体的方策] ア

国は、地方公共団体及びスポーツ団体等と連携し、女性スポーツに関する調査研究を行い、女子生徒の運動習慣の二極化を含め女性特有の課題を整理するとともに、これまでトップアスリートを対象に蓄積してきた研究や支援の成果も活用しつつ、トップアスリートを含め女性がスポーツに参画しやすい環境を整備する。

#### ■意見

笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ 2015」から、女子のスポーツ離れはすでに小学生年代からはじまっていることが明らかとなっています。また、男子児童に比べて実施環境や種目も限られています。そのため、二極化の改善には、中学生年代への直接的なアプローチとともに、小学生年代のスポーツ環境の改善が必要です。また、目指す姿がトップアスリートに偏った印象を受けます。以下に加筆案を示します。

国は、地方公共団体及び学校、スポーツ団体等と連携し、女性スポーツに関する調査研究を行い、女子児童のスポーツ離れや女子生徒の運動習慣の二極化を含め女性特有の課題を整理するとともに、これまでトップアスリートを対象に蓄積してきた研究や支援の成果も活用しつつ、女性がスポーツに参画しやすい環境を整備する。